



# 沖縄高専だより

National Institute of Technology, Okinawa College



## 目次

- |                           |     |                                   |       |
|---------------------------|-----|-----------------------------------|-------|
| 1. 校長より .....             | 2   | 8. 高専祭を終えて .....                  | 12    |
| 2. 卒業生(本科5年生)へ贈る言葉 .....  | 3・4 | 9. ロボコンの結果報告 .....                | 13    |
| 3. 卒業にあたって .....          | 5・6 | 10. 課外活動・コンテスト実績 .....            | 14    |
| 4. インターンシップに参加して .....    | 7・8 | 11. 専攻科及び九州大学との連携教育プログラムの紹介 ..... | 15    |
| 5. 修了生(専攻科2年生)へ贈る言葉 ..... | 9   | 12. 就職・進学活動を終えて .....             | 16・17 |
| 6. 修了にあたって .....          | 10  | 13. 2025年度就職・進学状況 .....           | 18・19 |
| 7. 学生会長挨拶(1年を振り返って) ..... | 11  |                                   |       |



## 贈ることば

～今一度 命の大切さを考えよう～

沖縄工業高等専門学校

校長 すずき こうじ 鈴木 康司

卒業生、修了生の皆さん、ご卒業・修了おめでとうございます。教職員を代表して心からお慶び申し上げます。今日まで卒業生、修了生を支え励ましてこられました保護者の皆様、ご家族の皆様にも心からお祝いを申し上げますと共に、本校に対するこれまでのご支援、ご協力に対し深く感謝申し上げます。

皆さんが入学されたころはまだコロナ禍中で、人類が今までの経験からあみだしてきた防疫対策なども追いつかないという状況下でありました。この世界的パンデミックを終息させたのは献身的医療従事者の皆さん、全く新しいワクチンを開発した研究者の皆さん、そして非常時でも規律を守り抜いた一般市民の皆さんのおかげでもありました。これには人類が発展させてきた科学技術の向上と、それを支えてきた道徳的教育の役割も大きかったと思っております。その中でもmRNAワクチンや新たな治療薬も開発されて致死率は大幅に下がり、我々が大きな危機を乗り越えた5年間であったと思います。これ以外にも医療医薬の高度化、食料供給の安定化、衛生環境の改善等から日本での平均寿命は男女とも80歳を超え、女性は90歳にも届くところまで伸びました。今年卒業、修了する皆さんの中でも多くの方が100歳以上の長生きができるような時代になっているかもしれません。

さて近年「勝ち組」という言葉を聞くことがあります。誰もが目標に向かって精一杯に生きていく中で、勝ち負けで区別、表現するのは違和感がありますが、あえて言えばどのような人が勝ち組になるのでしょうか。家族を幸せにする、偉くなる、お金持ちになる、良いことをして有名になる、・・・各人の価値観は異なりますのでこれが正解というものを選べないものかもしれません。ただヒトを生物(動物)として評価するのならば、一番長生きをしたヒト(動物)が勝ち組であるという書物を読んだことがあり、生物系の教員である私にとっては共感できることがあります。

では自分が長生きをするにはどうしたらできるのか？単純に命を大切にすることです。命にかかわるような危険なことをしない、規則正しい生活を心掛けて体を鍛える、定期的に健康診断を受けて問題があったら早期に検査・治療に励む。このような地道な努力の積み重ねではないでしょうか。あなたのクラスの同級生を母数とするならば、だれか1人はこの勝ち組になれるわけで、それを狙ってみるのはいかがでしょうか。それだけの「価値」のある「勝ち」だと思えます(ー〇)。

また命はバトンリレーのようなもので、親から子へ、子から孫へと引き継ぐものでもあるのです。我々はその動物として命をつないでいく使命も担っており、あなたもバトンリレー選手の1人なのです。そしてそのリレーの順番も崩さないように。人が亡くなる状況を経験するのは辛いことではありますが、祖父母、両親を看取らないうちにリレー棄権となる状態は避けられるようにしたいものです。

ぬちどう宝。この精神は、沖縄の人々の日常生活や歌、踊り、お祭りなど、様々な形で今も受け継がれています。あなたも命の尊さ、平和の大切さを常に心に留め、次世代へと語り継いでください。これから先も長生きをすれば良いことも悪いこともあるでしょう。それでも物事を前向きに考えて、人生を謳歌してもらえればと願っております。

改めて皆さんの人生の門出に、心からエールをお送りします。

# 卒業生(本科5年生)へ贈る言葉



機械システム工学科  
つむら たくや  
津村 卓也

18期の皆さん、本科5年間お疲れ様でした。コロナ禍の渦中であった令和3(2021)年4月に入学されてからあつという間に月日が流れ、それぞれの進路に向け旅立たれる日が来ました。ご卒業本当におめでとうございます。

皆さんは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1年生から2年生にかけては実習や実験を遠隔講義と対面実習を組み合わせて学ぶなど、学びの継続に対し大きなご苦労がありました。私は、3年次から機械学科担任を務め、皆さんの成長に立ち合わせて頂きました。ちょうど皆さんの担任となりました令和5(2023)年の5月から、新型コロナウイルス感染症の法的位置付けがインフルエンザなどと同じ5類に移行し、それまでであった多くの行動制限などが緩和されました。そのため、コロナ禍前と同様に体育祭、高専祭、研修旅行、インターンシップなどなどの様々な行事を行うことができ、幸運にもそれら行事に私も立ち合わせて頂く機会を得られました。これらの楽しい思い出を皆さんと共有できたこととともに、10期生に続き2回目の学科担任としてご一緒できたことを大変誇りに思っております。また皆さんと共に過ごした日々の中で、私自身の高専教員としてのスキルも格段にアップしたことを実感しております。どうもありがとうございました。

今後も、沖縄高専の18期生であることに誇りを持ちつつ、それぞれの人生をしっかりと歩んでいかれるとともに、人生の節々において適切な判断をされ、よりよく生きることを切に願います。そしてたまには沖縄高専のことを思い出して頂き、また何かの機会に来沖される際には、ぜひ近況報告を兼ねたお土産話をするために研究室にも足を運んでください。楽しみにお待ちしております。



3年次体育祭の様子



情報通信システム工学科  
やまだ ちかとし  
山田 親稔

情報通信システム工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。担任として、そして一人の大人として、皆さんの門出に言葉を贈ります。

高専で過ごした5年間は、決して楽な道のりではなかったはずですが、専門科目の難しさ、実験や課題に追われた日々、思うように結果が出ず悩んだ経験もあったでしょう。しかし、その一つ一つが、皆さんの「考える力」「やり抜く力」「仲間と協力する力」を確実に育ててきました。

情報通信の技術は、社会の基盤として今後ますます重要になります。同時に、技術は常に変化し、正解も一つではありません。これから先、壁にぶつかったときは、ぜひ高専時代に培った「自分で学び続ける姿勢」を思い出してください。知識よりも、その姿勢こそが、皆さんを支える最大の武器になります。

また、人とのつながりを大切にしてください。仲間、先輩、後輩、そしてこれから出会う人々との縁は、皆さんの人生を豊かにし、困難な場面で必ず力を与えてくれます。

皆さん一人ひとりが、自分なりの道を歩み、社会の中で輝いていくことを心から願っています。

# 卒業生(本科5年生)へ贈る言葉



メディア情報工学科

タンスリヤボン スリヨン

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本科メディア情報工学科の5年間を振り返れば、3年生の研修旅行以来、皆さんの成長を間近に見守ってきた日々が懐かしく思い起こされます。4年生のインターンシップでは全員が社会に挑み、報告会での凛とした姿に心を打たれました。5年生から担任として関わる中で、就職・進学活動では戸惑いながらも確かな歩みを進める皆さんに深い敬意を覚え、卒業研究では開発の面白さと難しさを体感されたことでしょう。

この5年間で得たのは、単なる知識や技術ではありません。皆さんはプログラミングや映像処理からAIまで、情報社会の基盤となる分野で「いかに価値を創造し届けるか」という本質と真剣に向き合ってきました。答えのない課題に仲間と取り組んだ経験、深夜までディスプレイと格闘した時間は、何ものにも代えがたい財産です。そこで培った「論理的に考え、批判的に検証し、創造する力」こそが、皆さんの真の武器となるでしょう。

社会は急速に変化し、学んだ技術もすぐに古びていくかもしれせん。しかし、メディア情報工学の根底にある「人と情報の理想的な関係を探求する精神」は不変です。技術で誰を幸せにし、どんな課題を解決するのか—その視点を忘れないければ、時代の変化をむしろ味方のできるはずで。

これからはそれぞれの道です。辛い時は、このキャンパスでともに過ごした仲間や先生を思い出してください。人との出会いは宝物です。困った時は支え合い、いつでも母校を訪ねてください。どうか自分を信じ、培った力を自信に変え、誠実さを忘れずに挑戦し続けてください。皆さんの活躍を心からお祈りしています。



生物資源工学科

いとう まさあき

伊東 昌章

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。生物資源工学科5年生の皆さんとは、3年生の時から関わらせていただきました。3年生では、三宮先生が担任で私が副担任でした。その後、4年生から2年間、私が担任となり、副担任の砂田先生にはいろいろとサポートいただきながら、皆さんと一緒にクラスの運営をしていきました。4年生の夏休みには、全員がインターンシップを経験し、視聴覚ホールで行ったインターンシップ報告会では大きく成長した姿を見ることができました。その後の、就職・進学活動では、とまどいながらも積極的に挑んでいる姿は頼もしくさえ思えました。そして、5年間の学業の集大成となる卒業研究では、実験・研究の面白さと難しさを経験したのではないかと思います。今、思い返すと、それらがあつという間に過ぎていったのではないのでしょうか？

卒業後は、就職あるいは進学とそれぞれの道に進まれると思います。それらの道には、楽しいこと、うれしいことがある反面、苦しいことや辛いことが必ず待ち構えています。そういった時には、ぜひ、沖縄高専で一緒に過ごした友を思い出してみてください。友に相談することできっと良い方向に進むことができると思います。また、沖縄高専は、皆さんの母校です。ぜひ、近くにお越しの際には、近況報告も兼ねて各先生の研究室を訪問されてみてください。

これから長い人生です。自分のキャリア形成を意識しつつ、自分にとって満足のいく、豊かな人生を過ごしていきましょう。卒業生の皆さんのますますのご活躍をお祈りいたします。

# 卒業にあたって



機械システム工学科  
く どう たいせい  
工藤 大晴

思い返してみると、本当にあっという間の5年間でした。1年生のころは、新型コロナウイルスの影響で対面授業と遠隔授業の繰り返し、定期試験がなくなったこともあり。このころ見た5年生の背中はとても大きく、自分もあんな風になれるのかなと不安もありました。それが、気が付くと自分が5年生になっていて、春からは社会人です。いまだに実感はわいてなく、浮足立っているような感覚ですが徐々に焦りと共に責任感が芽生えてきています。

振り返ると、最も忘れられない記憶は、男子バレーボール部に所属していたときの事です。友人と共に半分ノリと勢いで3年生から入部しました。自分たち独自で考えたメニューも多く、到底ここには書けないような内容もありました。それでもみんなで一丸となって取り組んだ練習や大会はとても思い出深いものになりました。

最後になりますが、5年間支えてくれた先生方、仲間、家族のおかげで無事卒業にたどり着けました。またどこかで会った時に、胸を張って「立派な社会人になったよ!」と報告できるようにお互い頑張りましょう!



機械システム工学科  
さ だ か ね ま お  
貞包 真生

卒業が近づくにつれて、「長かった5年間がやっと終わる」という想いと「まだまだ皆と学生生活を続けたい」という想いが交錯して、複雑な気持ちになります。

振り返ってみると、高専では本当に濃い5年間を過ごすことができました。その中でも特に心に残っているのは、1学年の頃から所属したロボット製作委員会での活動です。見ている人を楽しませる『魅せるロボット』で国技館の会場を沸かせた先輩方の姿に心を打たれ、自分たちも同じ舞台に立ちたい一心で日々制作に励みました。モノづくりに興味はあったものの、右も左も分からない状態からのスタートでした。それでも仲間とのコミュニケーションを大切に、ときにはぶつかり合いながら試行錯誤を重ね、自分達の手で作り上げたロボットで国技館の舞台に立つことができました。辞めようか悩んだ時期も何度もありましたが、今となってはそれも含め自分を大きく成長させてくれたように感じます。卒業後の就職先でもこの経験を活かしながら精進していきたいです。

改めて、人生の4分の1という時間を沖縄高専で過ごせたことを幸せに思います。これまで見捨てずに支えてくださった先生方、先輩方、後輩、そして同期のみんな、本当にありがとうございました!



情報通信システム工学科  
よ し い じ お ん  
吉井 慈恩

高専生活を通じて、私は人間的に大きく成長できたと確信しています。その要因は、何事にも全力で取り組む周囲の学生たちと、創造研究という挑戦の場でした。

入学当初、各分野で活躍する仲間の姿に感動し、私も彼らのように輝きたいと決意しました。そこで挑戦した高専祭実行委員会では、庶務局長として約80名を統率し、組織運営の難しさと達成感を学びました。また、ピアノ同好会長としては4年間、高専祭でのコンサートを主催し、参加者を当初の2名から10名へ、そして観客で溢れる人気企画へと育て上げることができました。

そして最も力を注いだのが創造研究です。「技術による社会課題解決」を軸に、2年次からリーダーとして活動する中で、責任感と技術力を磨き続けました。また活動を通していく中で、様々なコンテストに参加し多くの賞を獲得したり、メディアに取り上げていただいたりと大変貴重な経験も積むことができました。これらの経験は、両親、先生方、そして友人の支えがあってこそ得られたものです。この感謝を胸に、今後も成長し続けます。



情報通信システム工学科  
あ ら か き み な み  
新垣 美海

このたび、私たちは5年間の高専生活を終え、卒業の日を迎えました。実際のところ長い月日をご高専で過ごしてきたということもあり、第二の家のようなこの場所をたつ実感はあまり湧いていません。

在学中は、授業や行事を通して多くのことを学び、仲間とともに成長することができました。個性溢れる友人とも巡り合うことができ、高専祭、研修旅行をはじめとした学校行事を通して高専ならではの思い出を作ることもできました。本当に色々なことがありましたが、卒業を前にした今高専で得られた経験は私自身を大きく形作っているように思えます。

これまで温かくご指導くださった先生方をはじめ、私たちの成長を支えていただいた多くの方々へ心より感謝いたします。私は来年、九州大学への3年次編入が決まっており初めて故郷である沖縄を離れることとなりますが、高専での学びを生かし自分にはできないものづくりを探求していきたいと思っています。将来は、工学的な視点から製品を企画・開発できる職に就き、技術者としてできることを広くとらえ社会に貢献できるような大人になりたいです。

まだまだ未熟者ではありますが、この学校で得た学びを胸にそれぞれの道へ力強く歩んでいきたいと思っています。

# 卒業にあたって



メディア情報工学科  
うめきた にいな  
**梅北 新菜**

5年間の高専生活を振り返ると、私がいかに多くの方々に支えられていたか、改めて実感します。大きな転機は、高専祭運営への挑戦でした。実行委員長として仲間達と過去最高の協賛額を達成できた経験は、「行動こそが道を拓く」という確かな自信を私に与えてくれました。

その自信が原動力となり、ずっと憧れだった海外への一步を踏み出しました。学業の傍らで資金を貯め、5年生でパスポートを取得してからは、半年で14か国を巡りました。自ら企画・提案して得た助成金でギリシャ留学を実現できたことも、得難い経験です。旅の多くは一人旅だったものの、現地での出会いにも恵まれ、気づけば1年で30か国以上に友人ができていました。飛行機の搭乗回数は3年次の12回から、翌年は28回、そして54回へと年々増し、こうして巡った26都道府県、25か国の旅は、単なる「興味」から活きた「経験」へと変わり、今の私を形作っています。

来年からはエンジニアとして技術を磨きつつ、旅とともに人生を歩んでいきます。未知の文化や人々との出会いを通じて、自分自身の世界を広げ続けていきたいと考えています。

最後に、こんなに自由奔放な私を温かく見守ってくださった皆様、そして何より、私がどこへ行くことも笑顔で送り出してくれた家族に、心から感謝します。この場所で得た経験とご恩を糧に、新たな環境でも挑戦し続けます。本当にお世話になりました。



メディア情報工学科  
うの あつひと  
**野野 温人**

私は県外から1人で沖縄高専に進学してきた。当初は慣れない環境の中1人で暮らしていくことにストレスを感じていたがたくさんの友人と出会い、この5年間をここまでなんとか耐え忍ぶことが今までできている。友人等と旅行に行ったり、高専祭と一緒に回ったり、テスト勉強をしたりと今思えばよい思い出と思う。高専祭の準備では専門の技術はほとんど使わず泥臭く段ボール工作をしたことは学生らしくて非常に良い思い出と思う。

また、私は3年次に生物資源工学科からメディア情報工学科に転科した。そのため、勉強する分野をガラリと変えたり、建物の維持管理を専門にしている教員、友人等とコンテストに参加したり、海外の大学の研究室に留学したり、農作業用ロボットを開発して国際学会で発表したりと、様々なことに挑戦した。もし、普通校に通って大学進学していたら成しえないことばかりだったと思う。特に留学中は体調を2週間ほど壊し、ストレスで髪の毛が大量に抜けた経験は自身を非常に強くしたと思う。

今は卒業研究に悪戦苦闘しているが、結局はこの経験が進学後の研究、就職後の仕事に役に立つ日がくるのかなと考えて頑張っている。とはいえ、本当に早く卒研を終わらせたい。



生物資源工学科  
けるま せな  
**慶留間 星成**

入学式を終え、両親へ別れを告げる間もなくバスに乗せられて始まった高専生活。長いと思っていた5年間もあっという間に過ぎ、卒業を迎えます。

入学時はマスクで隣の席の人や先生の顔も分からないまま授業を受け、臨時休校が定期的に起きるなどコロナに翻弄される日々でした。寮生活や学校生活では全てが慣れない環境の中、趣味や気の合う友人を少しずつ増やし、時には大量の提出物や一夜漬けのテスト勉強といった苦境を共に乗り越えながら、笑いの絶えない時間を過ごすことが出来ました。学外活動ではコンテストの参加やタイ高専への訪問、インターンシップなどを通して、国内外の高専生や地域の人との交流を深めると共に、自分の得意分野を見つけ、曖昧であった自分の進路を明確に定めるきっかけとなりました。この5年間の高専生活を通して、数えきれないほど多くの知識と経験を得られたと感じています。

卒業後は専攻科に進学し、追加で2年の高専生活を送ります。人生の1/3を高専で過ごすことになる大きな決断ですので、自分の意志を貫き後悔の残らぬよう精一杯努力していきます。

最後になりますが、5年間お世話になった個性豊かな先生方、18期生の皆さん、1825日を共に笑いあった最高の友人達、そして私を支えてくれた家族に心から感謝致します。本当に楽しく充実した5年間でした!ありがとうございます。



生物資源工学科  
どうもと みゆな  
**堂本 海夕奈**

期待と不安を持ちながら高専に入学してからあっという間に5年が経ち、無事に卒業を迎えられることを嬉しく思います。5年間を振り返ってみると、人にも環境にも恵まれ、私にとって人生で最も人間として成長できた5年間でした。

入学直後は寮生活、90分授業、新たな人間関係の構築に悩まされました。中学校までと全く異なる環境で、学習面も生活面も急にレベルが上がったように感じ、ここに来て本当によかったのかなと不安だったのを昨日のこのように思い出せます。今では、勉強や研究の楽しさ、人と関わることの大切さを知り、当時悩んでいたことは成長の一步前段階だったんだと前向きに考えられるようになりました。

本当に充実した5年間で、あっという間に時が過ぎて寂しいです。1年生に戻ってやり直したいと思うこともありますが、将来の自分を後悔させないために、今ある時間を大切にこれからも1つ1つ目標達成に取り組んでいきます。

私は本科卒業後、専攻科に進学します。高専で培った経験と知識を糧に、これから始まる特別研究や就職活動も精一杯頑張っていきたいです。最後に、この5年間でお世話になった18期生の皆様、教職員の皆様、そして家族に、心より感謝申し上げます。

# インターンシップに参加して



機械システム工学科  
いまむら しゅん た  
**今村 駿太**

インターンシップ中は、業務に関する具体的な内容について深く学ばせていただくことができ、大変充実した5日間となりました。

その中でも、「ファンを創る」という社是が特に印象に残っています。

既存の機械をそのまま使用するのではなく、より効率的な生産を目指して行う改良への取り組みや、完成品のわずかな誤差も見逃さない緻密な検品作業からは、顧客を第一に考えるその理念が表れていると感じました。

今回の経験で得た学びを糧に、今後も自己研鑽に励んでまいります。



機械システム工学科  
くによし まな  
**国吉 真奈**

e.TEAM ANA 夏季インターンシップに参加させていただきましました。

今回のインターンシップは、社内の雰囲気や日々の業務を体験できる貴重な機会となりました。

特に、実習や懇談会を通して自分の仕事に誇りをもって取り組まれている姿が印象的でした。私もこのような社会人になりたいと強く感じました。

この経験を活かして、自己分析をより深く行い就職活動や進路選択に繋げていきたいです。



情報通信システム工学科  
きんじょう じん き  
**金城 仁己**

今回のインターンシップでは、異なる分野を持つ三つの企業に参加し、それぞれの業務内容や企業ごとの特徴を比較しながら学ぶことができました。各企業で扱う技術や仕事の進め方、職場の雰囲気はそれぞれ異なっていたが、共通して感じたのは、現場では基礎的な知識を土台としながらも、状況に応じて柔軟に考え、主体的に行動する力が強く求められているということである。業務体験を通して、学校で学んでいる情報通信分野の知識が、実際の現場で、課題を解決するための実践的な手段として活用されていることを理解することができた。また、社員の方々との交流を通じて、個人で完結するのではなく、チームで情報を共有し、互いに意見を出し合いながら仕事を進めていく姿勢の重要性を学んだ。さらに、責任を持って業務に向き合い、周囲と協力しながら成果を出していく社会人としての意識にも触れることができた。三社それぞれの強みや価値観、働き方に触れたことで、自分が将来どのような分野で、どのような環境の中で力を発揮したいのかを考える良いきっかけとなった。今回のインターンシップで得た経験や気づきを、今後の学習への取り組み方や進路選択に活かしていきたい。



情報通信システム工学科  
**サイソン ジューマ**

4年生の夏休みに、私は東京にある社会インフラやソリューションシステムなど幅広い事業を展開する企業で、10日間のインターンシップに参加しました。今回のインターンシップでは、Android Studioを用い、Java言語でゲームアプリを開発するという課題に取り組みました。これまでの高専の授業では基礎的なプログラミングを学んでいましたが、実際の開発環境でアプリの構成を考え、一から作る経験は初めてで、授業とは違う学びが多くありました。

開発の過程では、操作の処理、エラーの修正など、実践的な作業を繰り返しました。思い通りに動作しない部分は自分で、試行錯誤しながら修正をする過程はとても大変でした。また、社員の方々にコードの修正方法や開発の進め方についてのアドバイスなど、一緒に協力してものづくりを行う重要性も学びました。

このインターンシップを通して、プログラミングの技術だけでなく、問題を解決する力、コミュニケーションを取り相談をすることができる能力の大切さを実感しました。実際の企業で働く雰囲気を体験できたことは、進路を考えるうえでとても貴重な経験だったと思います。

# インターンシップに参加して



メディア情報工学科  
あはね ゆうり  
**阿波根 優里**

私は、アイコム株式会社の5日間のインターンシップに参加しました。アイコム株式会社は、幅広い無線通信機器を開発している総合無線機メーカーです。

今回のインターンシップはソフト設計職向けで、「タッチパネルを使った早押しクイズシステム」を5日間かけて作成しました。1日目は報連相の大切さについて学び、グループワークを行いました。2日目～4日目は、担当の方に質問したり他の参加学生と相談したりしながら、コードを書き進めました。うまく動いた瞬間は特に嬉しく、プログラミングの楽しさを改めて実感しました。4日目には事務所を見学し、エンジニアの方々が働く環境を間近で見ることができ、働くイメージがより具体的になりました。5日目には、各自が作成したシステムを接続してクイズ大会を行い、達成感を味わうことができました。

このインターンシップを通して、実践的な技術を学んだだけでなく、質問の仕方や相談しながら進める大切さなど、コミュニケーション面でも多くの気づきがありました。また、他の高専生や大学生と協力する中で、様々な発想に触れ、大きな刺激を受けました。今回得た経験を、今後の学習や活動に生かしていきたいと思います。



メディア情報工学科  
おおしる たくと  
**大城 拓登**

こんにちは！メディア情報工学科4年の大城拓登です！今回は、私がインターンシップで学んだことや感じたことを紹介したいと思います。

私が参加したのは那覇市にあるOTNet株式会社で、沖縄本島全域の光ファイバー網を配線・保守といった仕事を担う会社です。実習期間は5日間で、土曜日には急遽社内 BBQ にも参加させていただきました。(BBQ は社員の皆様と一緒に甲子園決勝戦(沖尚戦)を見ました^^)>

実習では、34台のルーターの初期設定、具志川や高原にある集線基地局での10G-PONサービスの動作確認、光ファイバーの融着など、幅広い業務に携わりました。優しい社員の方々が丁寧に教えてくださり、非常に楽しめました!!! また、うるま市広域は、私がインターネットを届けたと言っても過言ではありませんね(^^♪

普段は目にする事のないONU以降の流れに触れることで、インターネットの仕組みをより深く理解することができました。どれも貴重な体験だったので感謝しかありません!

最後に、これからインターンシップに参加する学生へ。

私も含め、友人の8割9割が「楽しかった!」と高評な感想なので、あまり身構えないで前向きにいっちゃってください^^)/



生物資源工学科  
うめきた はるか  
**梅北 遥**

私は坂本産業株式会社の5日間のインターンシップに参加させていただきました。坂本産業株式会社は、雛の育成から卵の出荷までを一貫して行っている企業です。インターンシップでは、卵の選別、鶏の体重測定や採血実習など、各部署をまわりながら実際の業務を体験しました。グループワークでは卵の商品開発に取り組み、最終日には成果をまとめて発表しました。

全体を通して特に印象に残ったのは「働く責任感」です。責任感というと当たり前のように聞こえますが、実際に現場に立つことでその重みをリアルに実感しました。特に、雛の段階から育てているからこそ“命を預かっている”という強い責任感を随所で感じました。

また、社員の方々と話す機会が多く、どの質問にも丁寧に答えてくださり、幅広い知識を持ち責任感を持って仕事に取り組む姿に刺激を受けました。プレゼンテーションの工夫や伝え方にも学びが多く、社会に出る上で役立つ学びが多くありました。

今回のインターンシップでは、普段は経験できないことを沢山体験することができ、自分の視野が大きく広がったと感じています。インターンシップで得た学びを、今後の進路選択や学生生活にも活かし、より自分の将来について深く考えていきたいです。



生物資源工学科  
おおた ここな  
**大田 心花**

私は夏休みに、株式会社資生堂の大阪工場・大阪茨木工場のインターンシップに5日間参加しました。インターンシップでは、製造現場の見学や体験、グループワークに取り組みました。

大阪茨木工場では中身製造チームや化粧品チームの業務を学び、大阪工場ではライン作業を体験しました。梱包をしながら不良品を見分ける作業は想像以上に難しく、複数の工程を同時に正確に行う高度な集中力が必要であることを実感しました。

また、各高専から集まった学生とともに、商品を保護するパッケージの設計や、製造ラインで発生した課題の解決に取り組みました。異なる専門分野の学生と議論を重ね、解決策を考え発表資料を作成する中で、自分の意見を分かりやすく伝える力や、他者の考えを柔軟に受け入れる姿勢の重要性を学びました。

さらに、社員の方々と交流を通して、資生堂の魅力をより深く知ることができました。丁寧なOJTや充実した福利厚生、そして仕事に誇りを持って働く姿が強く印象に残っています。就職先は仕事内容だけでなく、「その場所でのどのように暮らしていくのか」まで考えて選ぶべきだというお話も心に残りました。今回のインターンシップは、職場環境や働き方を実際に体感できる貴重な機会となりました。この経験を今後の進路選択や学びに生かしていきたいです。

# 修了生(専攻科2年生)へ贈る言葉



機械システム工学コース  
たけむら ふみあき  
**武村 史朗**

2024年度の本コース学生の半分が僕のところで特別研究をしていました。不甲斐ない指導だったかと思いますが、全員無事学士取得となっていたら、嬉しいです。専攻科2年生の実験を担当していますが、この実験では、皆さんと楽しく過ごすことができるので、毎年の楽しみです(学生がどう思っているかは不明ですが)。今年は画像処理に取り組みましたね。ありがとうございました。修了生の大半は社会人として4月から働きます。僕の経験での話になりますが、若いときの勉強(仕事や自身の好きなこと)をしておく、心身のケアを気に掛ける、をしてください。年を経ていくなところキイテクル、と感じます。皆さんの前途に幸多きことを祈念しています(一人一)



電子通信システム工学コース  
なかひら かつや  
**中平 勝也**

このたびは、沖縄高専での全課程ご修了、誠にありがとうございます。

思い返せば7年間という歳月は、長くもあり、また、技術者として成長を遂げるにはあつという間の時間であったことでしょう。皆さんの歩みには、深夜まで続いた実験の光景や全国大会での挑戦、そして仲間との熱い思い出が詰まっているはずですよ。

新たに社会へ踏み出す皆さん、そして大学へ進む皆さん。これからの数年は、間違いなく人生で最も充実し、そして楽しい時間になるはずですよ。受け身の立場から、自らの技術とアイデアで価値を生み出し、社会に貢献する側へと立場が変わります。

ただし、その自由には必ず「責任」が伴います。これからは、創り出したものが周囲にどのような影響を与えるか、その結果全てに責任を持つプロフェッショナルです。「技術は人を幸せにするためにある」という、高専で培った原点を決して忘れないでください。いつか、社会の最前線で再び皆さんと会える日を楽しみにしています。



情報工学コース  
たまき たつひろ  
**玉城 龍洋**

専攻科修了おめでとうございます。また、学生、学校を支えていただいた保護者の皆様にも学科教員を代表して心よりお祝い申し上げます。本科から7年間の学修の中で苦勞することも多かったと思いますが、皆さんの努力と熱意で全ての課程を修了できたことを嬉しく思います。

世界の政治情勢が大きく変革する中で、人間とコンピュータ(AI)との関係も大きく変わってきました。皆さんは大変な時代を生き抜くこととなります。仕事の在り方は、これからも変容していくことでしょう。知識、経験則からの判断といった場面ではAIには勝てない場面も多くなります。この変革の時代は大変ですが、親の世代も教員も経験したことのない未知の世界です。ワクワクしませんか? 皆さんにはこの世界を切り開き、楽しむことを目標に頑張っていって欲しいと思います。でも、同時に心に余裕を持つことを忘れないでください。心の余裕が人生を豊かにします。



生物資源工学コース  
はまだ たいすけ  
**濱田 泰輔**

専攻科生物資源工学コースを修了のみなさん、おめでとうございます。

沖縄高専専攻科では、学習・実験・研究において楽しかったことや苦しかったことなど多くのことに遭遇し、立ち向かったことと思います。その結果として専攻科を修了できたことでしょう。本当にみなさん頑張ったと思います。本科と専攻科あわせて本当に長い時間を沖縄高専で過ごしました。その間に多くの友人に出会い友情を育まれたと思います。それは一生の宝物だと思います。これからもずっと大事にしてください。

修了後は就職あるいは進学と進路はそれぞれ異なると思います。沖縄高専から離れることには違いありませんが、沖縄高専で培ったものや得られたものを大切にそれぞれの進路で生かして進んでください。これからみなさんにご活躍されることと思います。楽しみにしています。

# 修了にあたって



機械システム工学コース  
さだかね こうかい  
**貞包 空海**

気づけば沖縄高専での7年間の時間が過ぎ、気づけばレポートに追われ、気づけばロボットが思うように動かさず途方に暮れ…と、「気づけば」ばかりの学生生活でした。本科の頃は、授業と部活動の日々が中心で、気がつくとも毎日が慌ただしく過ぎていました。仲間と取り組む中で得た粘り強さや前向きさは、その後の学びの土台となりました。

専攻科に進学してからは、水中ロボットの研究に励み、海より深いバグと格闘しながら、ロボットの高度制御に挑戦しました。設計やシミュレーションが思うように進まず、ロボットより先に自分のメンタルが沈みかけている日もあり、「今日はどこが不調なの?」とロボットに問いかけたくなる瞬間もありました。それでも、原因を一つずつ改善していくことで、少しずつ成果を実感できました。

また研究と生活を両立する中で、時間の使い方や物事への向き合い方を見直し、限られた状況でも自分なりに工夫して成果を出す姿勢が身についたと感じています。

卒業を迎える今、高専生活で出会えた先生方や友人、そしてこれまで支えてくれた家族に感謝いたします。就職してからは未知の領域に挑み続ける毎日になるとは思いますが、沖縄高専で磨いた技術と粘り強さを燃料に、フルアクセルで前に進んでいきたいと思っています。7年間、本当にありがとうございました。



電子通信システム工学コース  
しまぶくろ いぶき  
**島袋 息吹**

沖縄高専での7年間は、仲間と協力しながら技術に向き合い、学びを積み重ねてきた時間でした。研究活動では、コンテスト参加や学会発表などの対外的な取り組みに力を入れ、構想から評価までを協力して進める中で、協働して課題を解決する姿勢が身につきました。また、高専祭の運営に携わった経験から、限られた条件でも周囲と連携しながら物事を進める難しさと責任の大切さを学びました。

授業では、電気・電子回路、半導体、制御、プログラミング、アルゴリズム、通信工学など幅広く学びました。特に実験科目では、測定や検証の結果を整理しレポートにまとめる過程を繰り返すことで、論理的に考え、根拠をもって説明する力が鍛えられました。仲間と議論しながら課題に向き合う経験を通して、協力して学びを深める姿勢も育ったと感じています。

さらに、インターンシップでは現場で通信技術が地域を支える基盤であることを実感し、進むべき方向を明確にすることができました。

4月からは県内の通信会社に就職し、高専で得た協働力と学びの姿勢を生かして、地域の通信を支える技術者として貢献していきたいと考えています。



情報工学コース  
いしはら れんたろう  
**石原 廉太郎**

沖縄高専専攻科の修了にあたり、これまで支えていただいた先生方ならびに専攻科の皆様へ深く感謝申し上げます。専攻科の2年間は、専門的な知識を体系的に深めるだけでなく、自ら課題を発見し、検討し、解決へ導く力が求められる場でした。特に研究活動においては、限られた期間の中でテーマに向き合い、必要な技術を習得しながら成果としてまとめ上げる難しさと、計画的にやり遂げることの大きな意義を実感しました。私自身もシステム開発を伴う研究に取り組む中で、設計・実装・評価といった一連の工程を経験し、多くの試行錯誤を重ねながら成長することができました。

また、専攻科での講義や電気学会を含めた研究発表の機会を通して、技術者として必要な基礎力に加え、論理的に思考する力や自分の考えをわかりやすく伝えるための表現力の重要性を強く認識しました。これらの学びは、今後社会に出て働く上で大きな支えになると確信しております。

最後に、このような恵まれた環境で学ぶことができたことを誇りに思います。専攻科で得た知識と経験を糧に、今後はより良い技術者として社会に貢献できるよう努めてまいります。ここまで支えていただいた家族、仲間、そして指導してくださった先生方に心より感謝申し上げます。



生物資源工学コース  
あさのみさき  
**浅野 光咲**

「卒業まで5年間!?ほとんど小学校じゃん!」と戦慄したのが5年前のこと。小学校生活の6年間は思い返せば一瞬だったように、高専での日々も瞬間に過ぎていき、気づけば卒業です。これは、2年前の私が「卒業にあたって」で書かせていただいた書き出しです。あれから「誰かに目隠しでもされていたのでは…」と疑ってしまうほどの早さで時がたち、気づけば「修了にあたって」を執筆させていただいています。

本科卒業後専攻科に進学した私は、小学校の6年間よりも長い7年という年月を沖縄高専で過ごしたことになります。本科入学時の不安と希望の入り混じったあの心境も、卒業時の達成感と少しの切なさも、今でも昨日のことのように思い返せるというのに、もうここを出ていかなければならない時が来たなんて狐につままれたような気持ちです。

専攻科に入学してからの2年間は本科での5年間以上にめまぐるしく過ぎていきましたが、学会発表のため海外を訪れたり、地域課題解決のためのこども支援商品の開発から販売までに携わったりと、何にも代えられない経験をたくさんさせていただきました。高専修了後は県外の大学院に進学し、引き続き興味を追い求めていく予定なのですが、沖縄高専での思い出は一生の宝物です。

最後になりましたが、色々な方面から私を支えてくださった先輩・後輩のみなさん、2019年の入学から7年間を共にした9人の戦友たち、熱いご指導を賜った先生方、そして家族に心より感謝申し上げます。ありがとうございました!!

# 学生会長挨拶（1年を振り返って）



学生会会長  
じょしゅ あ  
ヒュー 叙主亜

皆様、こんにちは。

今年度で2期目となる学生会会長を務めさせていただきました、機械システム工学科5年のヒュー叙主亜と申します。

この5年間、学生会の活動を温かく見守り、支えてくださった在学生の皆様、教職員の皆様、保護者の皆様、そして地域の皆様に、この場を借りて心より感謝申し上げます。

高専2年生で副会長として学生会に携わって以来、私の高専生活は学生会と共にありました。当初は漠然と「学校のトップになりたい」という思いから活動を始めましたが、気がつけば50名を超える大きな組織を預かる責任を背負い、学校の誰もが名前を知る人間となっていました。

学生会でのイベント企画や組織のマネジメントは、ごく普通の高専生活では決して味わえない、貴重な経験でした。大きな責任を背負いながらも、企画を成功させたときの達成感、そして学生間や先生方、OB・OG、企業の方々との広範な人脈は、何物にも代えがたい私の財産となりました。

もちろん、企画の失敗や人間関係のトラブル、先生方に迷惑をおかけしたことも多々ありました。しかし、その度に「自分自身のために学べたこと」、そして「後輩たちに繋げる知恵」を得ることができました。この経験を通じて得た責任感や行動力は、会長の任を終えた後も、私自身のさらなる成長の糧となると確信しています。

コロナ禍で学校を盛り上げるビジョンを示してくださった備瀬元会長、学生会を再建し全国高専交流会を成功させた新城元会長、そして常に陰ながら私たちを支え、導いてくださった学生主事の神里先生には、心からの感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

新しい時代を創る後輩たちには、私たちがそうであったように、さらに「飛躍する学生会」を創ってほしいと願っています。そして何よりも、多くの学生の皆さんに「沖縄高専でよかった」と思ってもらえれば、これほど嬉しいことはありません。

改めて、教職員の皆様、保護者の皆様、そして地域の皆様の温かいご支援と深いご理解に、重ねて心より感謝申し上げます。今後とも、沖縄高専学生会の活動に変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



# 高専祭を終えて

いたくら むつ ほ  
令和7年度 高専祭実行委員長 板倉 睦朋

今年度の高専祭が無事(?)に終わり、実行委員長補佐から実行委員長までの2年間の活動を振り返ると、本当に沢山のことを経験できた、かけがえない体験であったと感じます。この経験の中で、学生に的確な指示を出すことができるリーダーシップや、迅速なトラブル対処の方法を考え、実行する能力など、さまざまな力を培いました。

私は、3年次(令和6年度)には体育祭実行委員長を務めていました。一度、イベント事のリーダーを経験したから、高専祭実行委員長もなんとかなるだろうと思っていましたが、その甘い考えは、半年後に打ち砕かれました。体育祭と高専祭とでは、まるで規模が違ったのです。前代の高専祭実行委員長の仕事量や、当日の実行委員会の対応や連携、イベントとしてのクオリティーを目の当たりにして、大きな不安が私を襲いました。

令和6年度高専祭実行委員会からの引継ぎが終わり、「自分の代で、このクオリティーを維持、あるいは超えることができるのか」「この仕事量を捌ききれるか、そして実行委員全体を私がまとめることができるのか」など、様々な懸念点が浮かび上がりました。しかし、何事も悩むよりまず行動だと思って、やらないといけないことをリストアップし、一つ一つ丁寧にこなしていきました。そうすることによって、どうしても期限ぎりぎりになってしまったり、行動を起こすのが遅くなってしまうことこそあれど、なんとか高専祭直前までには形にすることができました。高専祭一週間前からは、情報共有不足や人間関係のトラブルが起り、より忙しくなりました。気が滅入りそうになるときもあったけど、実行委員の仲間や先生方に支えてもらって乗り越えることができました。

そして迎えた高専祭当日に、事件が起きました。「実行委員長骨折事件」です。我ながら本当に情けなかったです。実行委員の皆に大きな不安と心配を与えてしまいました。それでも、皆で力を合わせて、他に大きなトラブルもなく高専祭を閉じることができました。

私は、実行委員長という仕事を通して、自分がどれだけ周りの人間に恵まれているかに気付くことができました。昨年度の知見を共有してくれた先輩方、一緒に高専祭を創り上げてくれた実行委員の皆、当日私たちのサポートに徹してくださった先生方、どれを抜いても、今年度の高専祭が成功することは無かったと思います。高専祭運営に関わってくれた皆様方には、本当に感謝してもしきれません。

高専祭実行委員長としての経験は、今後の人生に必ず役に立つと、私は断言できます。この経験を活かし、さらに自分を高めていけるように精進していきたいと思います！そして、来年度以降の高専祭がより良く、皆が楽しめるものにするためにも、自分が学んだことを後輩たちに伝えていけたらと思います。

最後になりますが、今年度の高専祭のテーマは「ヒーロー」でした。そして、私は、高専祭だより前号で、実行委員が皆さんのヒーローになると豪語していましたが、はたしてそれは達成できていたのでしょうか？ 達成できていたなら幸いです。

本当の最後になりますが、支えてくださったすべての方々のおかげで、ここまで大成功に収めることが出来ました。本当にありがとうございました！！高専祭最高！！



# ロボコンの結果報告



沖縄高専ロボット  
製作委員会委員長  
あむろ こうたろう  
安室 昊多郎

こんにちは。沖縄高専ロボット製作委員会の安室昊多郎です。

私たちは、NHKが主催する「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」に出場するためのロボット製作を中心に活動を行っています。高専ロボコンは毎年異なる競技テーマが発表されますが、今年の競技は「Great High Gate」です。ロボットが様々な形のボックスを積み上げてゲートをつくり、そのゲートを人が乗った台車と一緒に通過する競技です。

九州沖縄地区大会では、沖縄高専からA、Bの2チームが参加しました。

Aチームはロボコンの活動を通して、体調管理や健康にも気を配るため、毎日ミーティング前には全員で腕立て伏せを10回行って行っていました。そこから着想を得て、チームのコンセプトを「筋トレ」にしました。装飾にはこれまでの沖縄らしさはそのままに、筋肉の装飾を施しました。ロボットの足回りには、今年度から本格的に開発を始めた4輪独立ステアリング機構を使用し、出場校の中でもトップクラスのスピードを実現しました。Aチームの大きな特徴は、台車の上で腹筋をすることです。台車に乗る人は競技時間の3分間、腹筋をし続け、会場を沸かすことができました。試合では練習の成果を発揮し、予選ブロックを勝ち進むことができました。しかし決勝トーナメント第1試合、モーターから煙が上がるというハプニングが起きてしまい、惜しくも敗退してしまいました。全国への推薦枠も勝ち取ることができずに終わってしまいました。

一方、Bチームはアイデアで魅せるロボットを目指しました。台車やヘルメットには琉球王朝を連想する装飾を施し、見た目の華やかさで観客を楽しませました。最大の特徴は、ダイスタッキングのようにダイナミックな動きで箱を回収する機構です。メンバーは1年生と2年生だけの下級生チームで、重たいダイスタッキング機構を支える昇降機構の設計・調整には苦労しました。そうした試行錯誤を通して、ロボットづくりの流れや人とのコミュニケーションの大切さを学びました。

両チームとも全国への切符を取ることはできませんでしたが、東京エレクトロン様、DENSO様から特別賞を受賞しました。来年度はこの経験を糧に、技術力とチーム力の両方に磨きをかけ、全国大会でのロボコン大賞の受賞を目指してロボット製作に取り組んでいきます。どうぞ今後ともロボット製作委員会をよろしくお願いたします。



# 課外活動・コンテスト実績

## ■ コンテスト関係主要実績

コンテスト名	成績等
アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト 2025 九州沖縄地区大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Aチーム 株式会社デンソー特別賞 プロジェクト名：Wonder Builders Core</li> <li>・Bチーム 東京エレクトロン株式会社特別賞 プロジェクト名：龍球ダイスター</li> </ul>
テクノアイデアコンテスト (テクノ愛) 2025	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の部 グランプリ テーマ名：日常会話から認知症を早期発見する新 アプリ (Detectia)</li> <li>・高校の部 奨励賞 (4位) テーマ名：人命と自然を守る無水型音波消火 AI ド ローンの開発</li> </ul>
第 6 回全国高等専門学校 ディープラーニングコンテスト (DCON)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学大臣賞、フソウ賞 チーム名：沖縄マリトレジャーレスキュー隊 テーマ：海難事故防止の必須アイテム RiCAS</li> </ul>
つくば Science Edge2025	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学大臣賞 (1位) テーマ：災害発生時の情報通信で命をつなぐアド ホック通信型防災ヘルメット</li> </ul>
第 13 回高校生 ビジネスプラン・グランプリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞</li> <li>・チーム名：ゆがふあーむ プラン名：バイオスティミュラントが切り拓く持 続可能な土壌 DX</li> </ul>
第 4 回高専防災減災コンテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学大臣賞 (1位) テーマ：災害発生時の公衆通信網遮断時でも使用で きるスマートフォン～アドフォン～</li> </ul>
第 3 回高専起業家サミット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀賞 チーム名：Neighbors Net テーマ：災害時に使えなくなったスマートフォン で通信の空白地帯を消す！ CoMesh</li> </ul>
第 19 回全国高等専門学校 プレゼンテーションコンテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高等専門学校連合会会長賞 1位</li> </ul>
宇宙甲子園 沖縄地方大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優勝 (缶サット部門) ※全国大会出場 (2026 年 3 月開催予定) モデルロケット部門 株式会社うちゅう賞</li> </ul>
第 32 回全国高等専門学校将棋大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体 3位</li> </ul>



# 専攻科及び九州大学との 連携教育プログラムの紹介

たにふじ しょういち  
専攻科長 谷藤 正一

専攻科では、座学の講義ばかりでなく、長期インターンシップやグローバルインターンシップ、また特別研究などを通じて、専門分野および関連分野において、より深い知識、実践性および創造性を修得します。特に、特別研究においては、自身で立てた研究計画に沿って自主的に研究を行い、学んだ知識と技術を駆使して課題解決を目指し、その成果を特別研究の最終発表会で報告を行います。さらに学外の学会等での発表における意見交換と知見の共有は、研究活動の質を高め、新たなアイデアを生み出す上で極めて重要です。例年12月に開催されている琉球大学工学部との研究交流発表会においては、専攻科生と琉球大学の方々が直接研究交流する良い機会になっています。その他にも、コンテスト等でも活発な交流が行われており、専攻科生の技術者・研究者としてのスキル向上に繋がっているものと思います。

専攻科修了生の皆さん、おめでとうございます。本科も含めた高専生活の7年間、様々な技術や情報を利用して、社会の要求や課題を解決できる能力や、やるべきことのスケジュールや進捗管理などのプロジェクト遂行能力、そしてチームで活動できる能力も磨かれたものと願ってやみません。これから立ちちはだかるであろう難関な問題にも果敢に挑戦していきましょう。

専攻科に関連して、「九州大学工学部・九州沖縄9高専 連携教育プログラム」が令和5年度より開始され、今年度で3年目となります。このプログラムは、九州沖縄地区の高等専門学校の各専攻科と九州大学工学部「融合基礎工学科」が連携して多様化する課題に適切に対応する人材を育成しています。履修者は高専専攻科と九州大学の双方に在籍して、1年目(専攻科1年次)は主に高専で、2年目(専攻科2年次)は九州大学で学びます。希望すれば、九大筑紫キャンパスにある新設の学生寮に入居できる予定です。また、プログラム所定の課程を修了すると、高専専攻科からの修了証書ならびに九州大学からの卒業証書(学士の学位記)が交付されます。沖縄高専から本プログラムに進んだ2年目(専攻科2年次)の学生3名は、全て九州大学の大学院に進学することが決まっています。1年目(専攻科1年次)の学生は、来年度から九州大学に拠点を移しますが、新しい環境で引き続き学業に励んでください。沖縄高専と九州大学の両方での学びを楽しみながら積極的に取り組んでほしいと思います。

本プログラムの詳細については、下記ホームページをご覧ください。

九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムホームページ

<https://renkei.kyu-kosen-ac.jp>



# 就職・進学活動を終えて[本科5年生]



機械システム工学科  
いわた しょうき  
**岩田 翔樹**

私は来年4月から長岡技術科学大学の機械工学分野に編入します。私は大学に進学したいという思いが高専に入学する前からありました。なぜなら研究がしたいのと仕事の幅を広げたいと思ったからです。と言っているものの本格的に大学編入の勉強を始めたのは4年生の12月で比較的遅かったです。大学編入は席次が1桁代の人がするものだと思う方もいるかもしれませんが、私の5年間の席次は10番代なので安心してほしいです。結局は学力試験であれば編入の勉強次第ということになります。

私が言いたい大学編入のアドバイスは「1人で勉強しないこと」と、「最低限の点数を決めること」です。1つ目の「1人で勉強しないこと」は、失敗談ですが1人で勉強を行っているメンタル的に参ってきます。人と比べることが出来ないため自分が今どのレベルにいるかわからないからです。2つ目の「最低限の点数を決めること」は、最低でも何点あれば受かりそうという目安と安心材料になるのでお勧めです。具体的にはネットにある自分の受験したい大学を受けた人の体験談を見ると何割割けたと言っている人がいるので参考にするといいでしょう。最後に編入の勉強は大変ですが将来、後悔しないはずなので頑張ってください。



情報通信システム工学科  
にしかわ なな お  
**西川 七音**

私の就職活動には、大きなターニングポイントがあったと感じています。それは、内定先企業のインターンシップに参加したことです。インターンシップに参加した当初、私は就職ではなく進学を視野に入れて進路を考えていました。しかし、実際にインターンシップを通してOBの方々のお話を伺い、企業の風土や働く環境を肌で感じる中で、就職という選択肢も自分にとって現実的なものなのではないかと思うようになりました。

インターンシップ終了後の十月、進路を決定する時期を迎え進学と就職の間で大きく悩みました。そのような中、企業の方から進路について相談させていただく機会をいただき、OBや採用担当の方とお話する中で、就職へと進路を変更する決心を固めることができました。

その後は、様々な企業の説明会に参加し、エントリーシートを書くための自己分析や面接対策に取り組み、三月末には内定をいただくことができました。

就職活動を終えて、進学という選択肢の一つにとらわれず、最後まで悩んで自分自身の進路を考えることが大切だと感じました。また、進路で悩むということは誰もが経験することだと思います。そのため、一人で抱え込まず、先輩やOBなど周囲の方に相談することの大切さを感じました。



メディア情報工学科  
いけはら たけと  
**池原 武人**

私が5年前に沖縄高専へ入学した当初、5年生の卒業前に自分が何をしているのかは想像もしていませんでした。現在は卒業後、ソフトバンク株式会社へ入社する予定ですが、4年生の5月に授業で進路を考えるまでは、大学への推薦編入を志望していました。就職か進学かという分岐点に立ち、初めて「自分は何をして生きていくのか」を真剣に考え、最終的に就職を選択しました。

就職を決めた後は、業界や企業について十分な知識がないまま、複数社の夏季インターンシップに応募しました。その中の一つが、研修旅行で見学したソフトバンク株式会社であり、本命コースには届かなかったものの、併願していた2weekのエンジニアコースに参加することができました。インターン終了後には早期選考を受け、志望動機やガクチカではなく、人物像や企業との相性を重視した面接を経て、4年生の12月に内定をいただきました。

進学から就職への切り替えに不安がなかったのは、学生会で局長として活動した経験や、学外ハッカソンでの開発経験、そして学業に継続して取り組んできた結果だと考えています。在校生の皆さんには、学年や進路にとらわれず、少しでも興味のあることに挑戦してほしいと思います。高専の5年間は短いので、後悔のないように過ごして欲しいと願っています。



生物資源工学科  
いずみ みめい  
**泉水 三明**

私は、進学か就職かで悩んだ時期もありましたが、4年生でのインターンシップを通して、就職を選択することを決めました。高専への入学を決めた当初は、「良い企業に就職できる」と聞いたこともあり、早い段階から合同企業説明会などに参加し、進路について考える機会を大切にしてきました。

4年生で参加したインターンシップでは、実際に働く現場を経験する中で、行きたいと感じる企業を見つけることができました。職場の雰囲気や仕事への取り組み方に触れたことで、将来どのように働きたいのかという具体的なイメージを持つことができ、この経験が進路を決める大きなきっかけとなりました。

一方で、就職活動では、自分の強みや学生時代に力を入れたことを言葉にする難しさを感じ、エントリーシートの作成に苦戦しました。しかし、その過程で自分自身を振り返ることができ、先生方や周囲の支えの大切さを実感しました。

就職活動を終えて感じたことは、早めの心構えが大切だということです。高専で過ごす時間は限られており、一日一日の積み重ねが将来につながっていきます。将来を見据え、自分の進路について考えながら学校生活を送ることが大切だと感じました。

# 就職進学活動を終えて[専攻科2年生]



機械システム工学コース  
たなか しんら  
**田中 晨楽**

同じ校舎に7年間通い詰め、人生の約3分の1をこの僻地で過ごしてきました。自分でも信じられません。

思えば2年前の高専だよりも同じテーマで文章を書いており、読み返してみると「航空整備士を目指していたが、5年間でよく分からなくなったので専攻科で視野を広げたい。後悔はしていない」と語っていました。結局この2年間、何かに挑戦したかと問われると疑問符が浮かびますが、環境にも恵まれたおかげで後悔はしていません。新たな研究に取り組み、本科では手が届かなかった企業へも就職活動できたことは、自分にとって大きなメリットだったと感じています。

もともと手を動かして何かを作ることが好きで、小学校の卒業式では「飛行機を触る仕事をしたい!」と話していたことを思い出します。紆余曲折ありましたが、結果として航空機に携わる仕事に就くことが決まり、昔の夢を捨てなくてよかったなあと感じています。これから進路選択を控えている方には、これまでの成果は変えられないからこそ、就職活動をはじめとする情報を常に収集し続けることが大切だとお伝えしたいと思います。

最後になりますが、沖縄高専での7年間は、胸を張って「楽しかった」と言える学生生活でした。沖縄高専で出会ったすべての方々、遠方からサポートし続けてくれた家族に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



電子通信システム工学コース  
たくし こういち  
**澤岨 孝一**

沖縄セルラー電話株式会社より内定をいただき、4月からエンジニアとしての一歩を踏み出せることを大変嬉しく思っています。高専生活で培ってきた専門的な技術力と知識を活かし、人々の暮らしを根底から支える重要なインフラである「通信」の仕事に携わりたいという強い思いで志望いたしました。

就職活動においては、私の武器である「周囲を巻き込むコミュニケーション能力」と、どんな状況でも「何事も楽しむ力」をどう業務に活かすかを考え抜きました。技術的な課題や未知の壁に直面しても、それを成長の機会として楽しみながら乗り越えていく。そんな姿勢を評価していただけたことが、何よりの自信となっています。

これからは沖縄セルラーという地域に根ざしたフィールドで、持ち前の明るさと粘り強さを発揮し、沖縄の発展と豊かな通信社会の実現に向けて、技術者として挑戦を続けていきます。

ここまで温かく支えてくれた家族、共に学んだ友人、そして熱心に指導してくださった先生方、本当にありがとうございました。皆様への感謝を胸に、初心を忘れず、信頼されるエンジニアを目指して全力で頑張ります!



情報工学コース  
まえはら とうよう  
**前原 東洋**

専攻科情報工学コースの学生として、無事に就職活動を終えることができました。

やっと落ち着いて映画館に行けます。

本科入学から専攻科修了までの7年間、私は寮で生活してきました。集団生活特有の規律や時間管理の厳しさに、正直「大変だ」と感じる時期もありました。

学年が上がるにつれて同級生の寮生は減り続け、特に専攻科で寮に残れるのは数人。仲間が少なくなっていく寂しさはありましたが、最後までこの環境でやり遂げたことは、私にとって大きな自信となりました。

就職活動では学校推薦を利用しましたが、準備は決して楽ではありません。特にSPI(適性検査)対策には苦勞し、「もっと早く取り組むべきだった」と後悔しながら机に向かう日々でした。

しかし、緊張の中で迎えた名古屋での最終面接は驚くほどフランクで、自分らしく話し、強みを伝えることができました。現地の食事や街並みを楽しむ余裕さえ持てました。

春からはエンジニアとして働きますが、今の心境は期待半分、生活への不安半分です。7年間、なんだかんだ寮食に支えられてきた私にとって、初めての一人暮らしは自炊との戦いです。

これからは生活面でも自立した社会人になれるよう頑張っています。



生物資源工学コース  
あさと きょうへい  
**安里 匡平**

私は4月から、東京海洋大学大学院 生命科学研究部に進学する予定です。高専生活を振り返ると、専攻科に入ってからの毎日は、まさにひたすらトライアンドエラーの連続でした。思い通りにいかないことばかりでしたが、うまくできるようになるまで考え抜き、行動し続ける中で、少しずつ成長していったように感じています。

大学院進学を意識し始めたのは、特別研究に取り組む中で、自分には水産分野の専門知識や技術がまだまだ不足していると強く実感したことがきっかけでした。沖縄高専では水産に触れる機会が多くないため、このままでは将来水産分野で研究を続けるには土台が足りないと考え、一度専門性の高い環境に身を置く必要があると判断しました。進学先を決めたのは専攻科1年の夏休みです。養殖研究に興味を持つ中で、「鯖にマグロを生ませる」という衝撃的な研究を行っている研究室を知り、実際に訪問して大きな刺激を受け、迷わず進学先として決めました。

高専で過ごした7年間では、研究に限らず多くの力が身についたと思います。委員会活動を通しては人との関わり方や仕事の進め方を学び、研究活動では物事の捉え方や研究への姿勢が鍛えられました。こうした成長は、決して自分一人の力ではなく、周囲の人々や環境に恵まれていたからこそ得られたものです。支えてくださったすべての方々、心から感謝しています。

高専は他の高校や大学とは異なる、良い意味で独特な環境です。それは大きなアドバンテージであり、自分の進路を切り開く強力な武器になります。しかしその特長を十分に活かさず卒業してしまう学生も多いと感じています。だからこそ後輩の皆さんには、高専という環境の強みをよく理解し、自分のやりたいことを実現する手段としてどう活かせるかを考えながら過ごしてほしいと思います。きっと高専生活がより充実したものになるはずですよ。

# ■就職・進学・志願状況

【令和8年3月卒業予定者の進路状況】

令和8年2月1日現在

区分	学科				合計
	機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	
卒業予定者数※2	34	41	50	34	159
進学希望者数	7	13	9	17	46
合格者数	7	11	7	17	42
うち専攻科合格者数	5	7	2	10	24
うち3年次編入等合格者数	2	4	5	7	18
うち専門学校・その他合格者数	0	0	0	0	0
進学合格率 (合格者数/進学希望者数)	100.0%	84.6%	77.8%	100.0%	91.3%
進学先※1	沖縄工業高等専門学校専攻科(5) 長岡技術科学大学 九州工業大学	沖縄工業高等専門学校専攻科(7) 高知大学 千葉大学 九州大学 筑波技術大学	沖縄工業高等専門学校専攻科(2) 豊橋技術科学大学(4) 福島大学	沖縄工業高等専門学校専攻科(10) 長岡技術科学大学 豊橋技術科学大学 筑波大学(2) 東京農工大学 三重大学 新潟大学	
就職希望者数	20	24	39	17	100
就職者数	18	20	29	16	83
就職率 (就職者数/就職希望者数)	90.0%	83.3%	74.4%	94.1%	83.0%
就職先企業名※1 (県内) 県内に本社がある企業	国和設備工業株式会社 計 1 名 就職者に占める割合 6%	沖縄電力株式会社 計 1 名 就職者に占める割合 5%	ちゅらデータ株式会社 株式会社ビーンズラボ 計 2 名 就職者に占める割合 7%	沖縄コカ・コーラボトリング株式会社 沖縄電機工業株式会社 計 2 名 就職者に占める割合 13%	県内計 6 名 就職者に占める割合 7%
就職先企業名※1 (県外) 県外に本社がある企業	ANAベースメンテナンステクニクス株式会社 ANAラインメンテナンステクニクス株式会社 出光興産株式会社(4) 株式会社シシダ 株式会社JALエンジニアリング 株式会社ダイハツビジネスサポートセンター 積水化学工業株式会社 ダイダン株式会社 竹田設計工業株式会社 東芝プラントシステム株式会社 マキノジェイ株式会社 株式会社トヨタガスレーシングディベロップメント 三建設備工業株式会社 ダイダン株式会社	ANAベースメンテナンステクニクス株式会社 ANAラインメンテナンステクニクス株式会社 KDDIアジャイル開発センター株式会社 NTTドコモビジネスエンジニアリング株式会社 NTT西日本株式会社 UTエイム株式会社 エスアイエス・テクノサービス株式会社(2) キャノンメディカルシステムズ株式会社 パーソルクロステクノロジー株式会社 フューチャーアーキテクト株式会社 横河ソリューションサービス株式会社(2) 株式会社IHIエスキューブ 株式会社タップ 株式会社ビーンズラボ 矢崎総業株式会社 日本アルゴリズム株式会社	bravesoft株式会社 KDDIアジャイル開発センター株式会社 イントループ株式会社 ウエルスナビ株式会社 エスアイエス・テクノサービス株式会社 スマートホールディングス株式会社(2) ソフトバンク株式会社 日立ハイシステム21 フラー株式会社(3) 株式会社日立ハイシステム21(2) 株式会社jig.jp 株式会社NS・コンピュータサービス 株式会社PLAY 株式会社オープンアップ(2) 株式会社オロ 株式会社グローバルネットワークサービス 株式会社コロブラ 株式会社ティ・アイ・ディ 株式会社ディレクターズ 株式会社トヨタシステムズ 株式会社ヒューマンキャピタル 独立行政法人 国立印刷局	サントリーホールディングス(2) 株式会社カネカ 株式会社資生堂 出光興産株式会社(2) 大阪シーリング印刷株式会社 沢井製薬株式会社 富士石油株式会社 理研ビタミン株式会社 大阪大学量子情報・量子生命研究センター 株式会社武蔵野 大阪ガスネットワーク株式会社 大阪ガスマーケティング株式会社	県外計 77 名 就職者に占める割合 93%
その他	7名	4名	2名	0名	計 13 名

※1 同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を( )内に示しています。

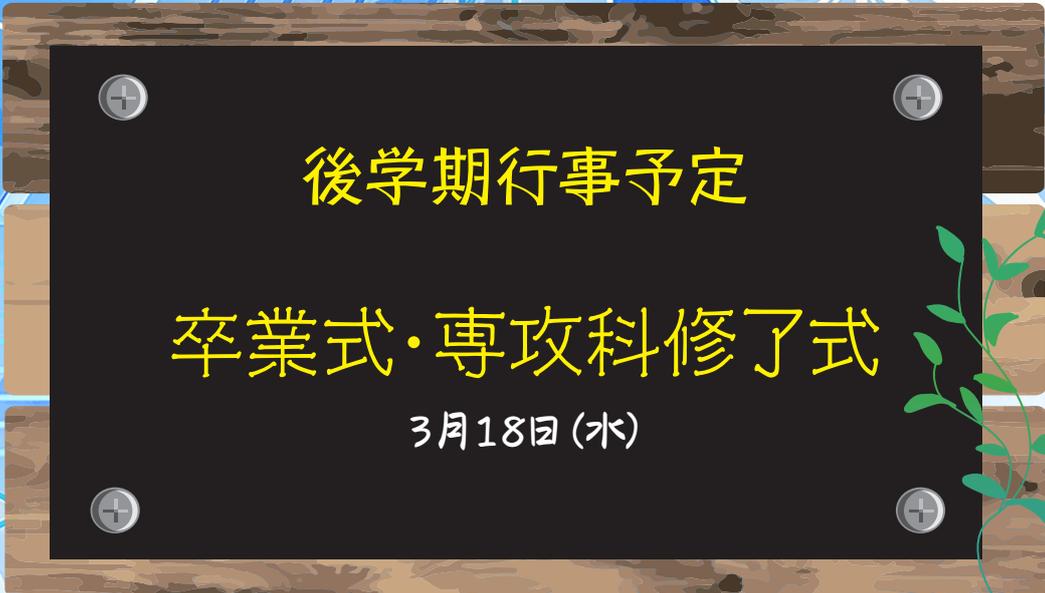
※2 卒業予定者数には留学生を含む。

## 【令和8年3月修了予定者の進路状況】

令和8年2月1日現在

	区分	コース				合計
		機械システム工学コース	電子通信システム工学コース	情報工学コース	生物資源工学コース	
合格状況	修了予定者数	8	7	4	10	29
	進学希望者数	1	1	2	3	7
	合格者数	1	1	1	3	6
	うち大学院等合格者	1	1	1	3	6
	うち専門学校・その他合格者	0	0	0	0	0
	進学合格率 (進学者数/進学希望者数)	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	85.7%
進学先※1	九州大学大学院	九州大学大学院	筑波大学大学院	北海道大学大学院 神戸大学大学院 九州大学大学院		
内定状況	就職希望者数	7	5	2	3	17
	就職者数	7	5	2	2	16
	就職率 (就職者数/就職希望者数)	100.0%	100.0%	100.0%	66.7%	94.1%
	就職先企業名※1 (県内) 県内に本社がある企業		沖縄セルラー電話株式会社(2)			
		計 0 名	計 2 名	計 0 名	計 0 名	県内計 2 名
		就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 40%	就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 13%
	就職先企業名※1 (県外) 県外に本社がある企業	トヨタ自動車株式会社 全日本空輸株式会社 西日本高速道路ファシリティーズ株式会社 東京水道株式会社 サントリーホールディングス株式会社 株式会社西島製作所 トヨタバッテリー株式会社	KDDI 株式会社 アクセンチュア株式会社 ミネベアパワーデバイス株式会社	株式会社ビーネックスソリューションズ 株式会社ヴィッツ	東芝情報システム株式会社 出光興産株式会社	
		計 7 名	計 3 名	計 2 名	計 2 名	県内計 14 名
		就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 60%	就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 88%
	その他	0名	1名	0名	5名	計 6 名

※1 同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を( )内に示しています。



後学期行事予定

卒業式・専攻科修了式

3月18日(水)

(問合せ先)

沖縄工業高等専門学校 総務課総務係

TEL : 0980-55-4003 Mail : ssoumu@okinawa-ct.ac.jp